

2. 福井市の夜間景観の基本的構成

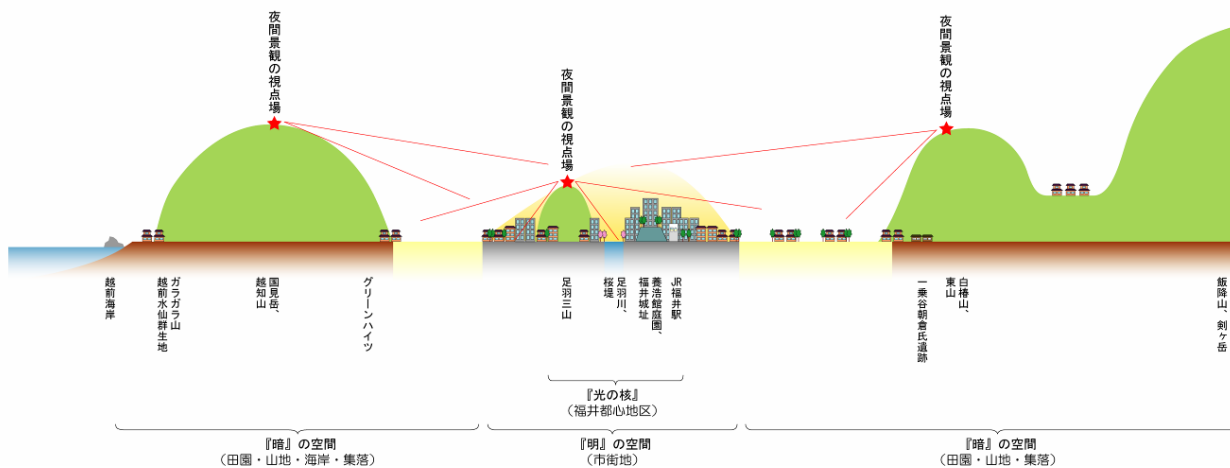
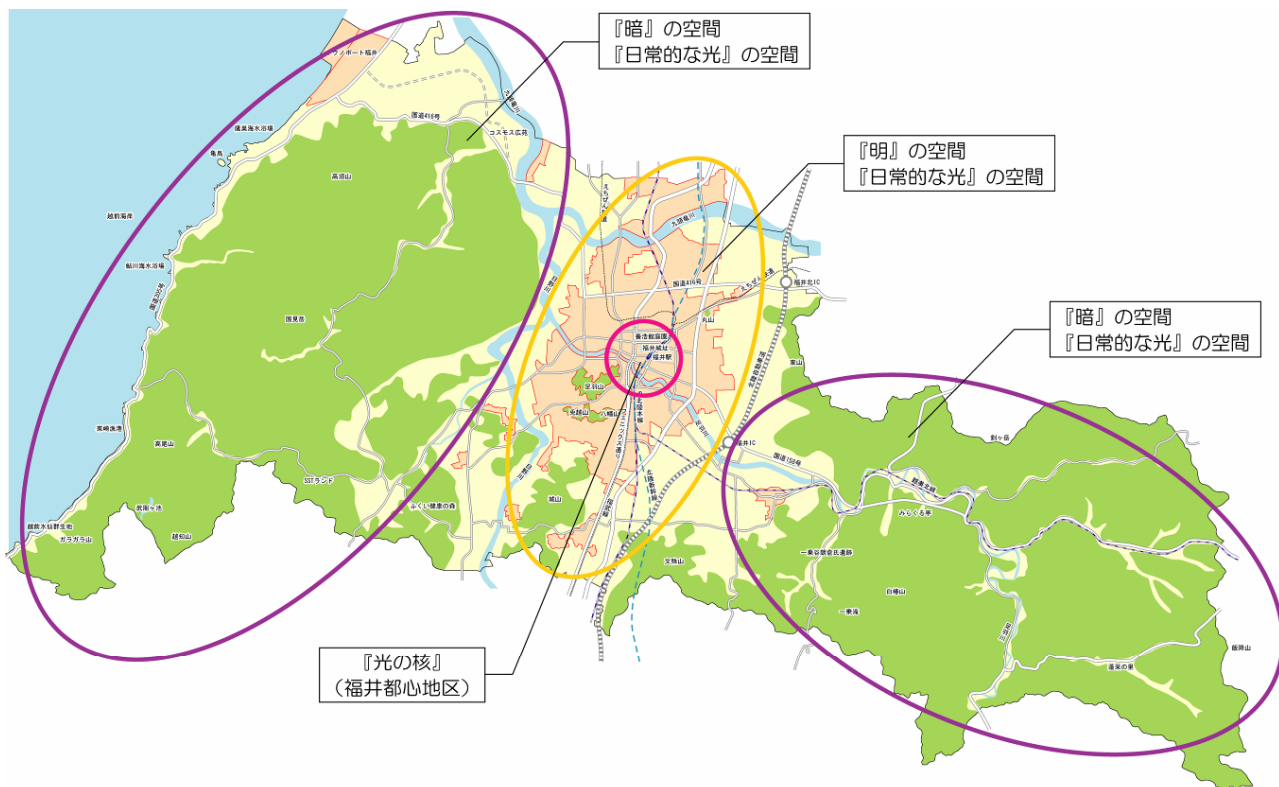
① 福井のロケーションに応じた夜間景観の在り方

- ・夜間景観の源となる「光」は、商業や業務、観光などの都市活動や道路などの公共空間が生み出す『明』の空間と、田園や山林、海岸などの自然空間によって形成される『暗』の空間に大きく分けられます。
- ・『明』の空間は主に市街地であり、都市活動や都市生活の場として昼夜を問わず多くの人が滞在することから、魅力ある夜間景観の形成に取り組んでいくべき場所です。
- ・その中であって、商業や業務、行政、文化、交流機能などが集積する福井都心地区は『光の核』となる場所であり、特に重点的に夜間景観の形成を図っていく必要があります。

- ・この際、夜間景観を演出するうえでは地形的条件が大きな影響を与えます。起伏に富んだ地形であれば、高低差を活かした光の配置を行うことで立体的な夜間景観を演出することができ、夜間においても地形的特性を実感することができます。
- ・しかし、福井市は広大な福井平野の中心に市街地が形成されていることから、夜間景観を演出するうえでは厳しい条件にあると言えます。
- ・このため、福井市において魅力ある夜間景観を創出するためには、建築物から発生される光（窓等開口部や店先からの光）や光のつながりを意識することが特に重要となります。
- ・また、平坦な福井平野の中心にまちの「目印」としてそびえる足羽三山では、夜間においてもそのシンボル性が感じられるように光を演出するとともに、愛宕坂などは坂のある景観として積極的に活用していくことが望まれます。

- ・これら福井都心地区から見る夜間景観は、「近景」が中心となることから、人の視点に配慮して光を適切に配置することが重要となります。
- ・これに対して、足羽三山から楽しむことができる 360 度のパノラマは「中景」、福井平野の東西に広がる山並みから望むことができる福井平野の大パノラマは「遠景」が中心となることから、夜間景観を楽しむ視点場として活用していくことが望まれています。

- ・『明』と『暗』の空間には、そこに暮らす人々の生活が生み出す『日常的な光』の空間があり、『暗』の空間や『日常的な光』の空間にあっては、生態系などの自然環境や地域の生活環境を保全するため、過剰な光を避けることが必要となります。
- ・また、『明』の空間を際立たせ、行く先の期待感を演出するためには、“暗さ”を大事することが必要です。魅力ある夜間景観とは、ただ明るければいいという訳ではなく、暗さの中にも温かさが感じられるような整備・演出を図っていくことが必要です。
- ・もちろん、『暗』の空間にあっても光を当てるべき地域固有の資源があり、光を使ったイベントなど、個性ある地域づくりや地域振興策として有効に活用することが必要です。



福井市の夜間景観を形成する基本的な空間構成

②「光」と「陰影」

- ・魅力ある夜間景観を形成するうえで、歴史的建造物や構造物、良好にデザインされた建築物などに光を当てること（ライトアップ等）は欠かせない要素です。
- ・しかし、やみくもに光を当てたり、煌々と照らしたのでは、建築物等の形態・意匠が活かされないばかりか、魅力ある夜間景観の形成に悪影響を与える要因にもなりかねません。
- ・建築物等に対してライトアップを行う場合には、物体に光を当てることによってできる“陰影”、すなわちコントラストが重要であり、対象物の形態・意匠をしっかりと把握したうえで、最適な光源の選定、配置・投光の方法を考えることが必要です。